

明治安田生命 夏に関するアンケート調査を実施！

**夏休みに使うお金は2年連続減少！帰省費用は調査開始以来最低に！
消費創出効果も期待！？「キッズウィーク」の過ごし方は「国内旅行」が過半数！**

明治安田生命保険相互会社（執行役社長 根岸 秋男）は、お盆の帰省シーズンを前に、夏に関するアンケート調査を実施しましたのでご報告します。

1. 今年の夏休み

- **夏休みに使うお金は2年連続の減少！「81,380円」に！** … (P4)
当社チーフエコノミスト小玉 祐一が「夏の消費」について分析！
- **ワーク・ライフ・バランス実現への道のりは遠い！？**
夏休みの日数「理想」と「現実」のギャップは調査開始以来最大！ … (P7)
- **ゆとりなき家計事情！？節約意識の高まりから約7割超が「自宅でゆっくり」！**
夏休みの過ごし方にも「理想」と「現実」のギャップに開きが！ … (P9)
- **猛暑を警戒！？国内旅行の行き先は「北海道」「東北」が大きく増加！** … (P11)

2. 帰省の費用と交通手段

- **帰省費用も調査開始以来最低の「31,456円」に！！**
子どもが喜ぶお盆イベント！お盆玉は増加傾向！！ … (P12)
- **帰省の渋滞も何のその！？「安さ」重視で6割以上が車で帰省！** … (P14)
- **「家族サービス」という名の大仕事！帰省の運転は約8割が夫！** … (P15)

3. キッズウィーク

- **「キッズウィーク」導入の効果にはまだまだ懐疑的！？**
賛成は約3割！成否のカギは、やはり親の休暇取得か！？ … (P16)
当社チーフエコノミスト小玉 祐一が「キッズウィーク」について分析！
- **「秋休み」を熱望！？**
「キッズウィーク」の理想の取得時期は6割超が「秋」（9～11月）と回答！
消費創出効果も期待！？「過ごし方」では、「自宅でゆっくり」は夏休みの半分以下！！ … (P19)

対象者の属性

1. 調査対象

20～59歳の男性・女性

2. 調査エリア

全国

3. 調査期間

2017年7月3日(月)～7月10日(月)

4. 調査方法

インターネット調査

5. 有効回答者数

1,093人

6. 回答者の内訳

(単位:人)

| | 20歳代 | 30歳代 | 40歳代 | 50歳代 | 計 |
|----|------|------|------|------|-------|
| 男性 | 139 | 138 | 135 | 136 | 548 |
| 女性 | 132 | 136 | 139 | 138 | 545 |
| 計 | 271 | 274 | 274 | 274 | 1,093 |

【 目 次 】

1. 今年の夏休み

- (1) 夏休みに使う金額 4 ページ
- (2) 夏休みの日数における「理想」と「現実」 7 ページ
- (3) 夏休みの過ごし方と理由 9 ページ
- (4) 旅行の行き先 11 ページ

2. 帰省の費用と交通手段

- (1) 帰省に使うお金 12 ページ
- (2) 帰省の交通手段 14 ページ
- (3) 帰省と家族 15 ページ

3. キッズウィーク

- (1) 制度導入への賛否と理由 16 ページ
- (2) 理想の取得時期と過ごし方 19 ページ

1. 今年の夏休み

(1) 夏休みに使う金額

夏休みに使うお金は2年連続の減少！「81,380円」に！

- 夏休みに使う金額について聞いてみたところ、全体の平均は、「81,380円」と、昨年から「2,952円」減少しました。2年連続の減少となり、依然として個人消費の回復には力強さを欠いているようです。
- 男女別でみると、男性は「82,723円」と昨年から680円増加する一方、女性は「80,029円」と昨年から6,596円の大幅減少となり、実に11年ぶりに男女の金額が逆転しました。超低金利環境が続くなか、将来への不安感から、家計をにぎる女性は、財布の紐を引き締めているのかもしれませんが。
- 地域別では、「関東」（100,411円）が昨年に続きトップ。全8地域のうち、昨年から増加した地域は「九州・沖縄」「東北」の2地域、減少した地域は6地域と、全国的に減少傾向が鮮明となりました。なお、3大都市圏とその他地域との差は、「2,995円」と、地域格差はさらに拡大しました。
- 夏のボーナスについて聞いてみたところ、「増えた」と回答した人は10.9%と、昨年を2.3ポイント下回りました。また、「もともとボーナスはない/わからない」と回答した人は41.3%と、昨年を3.3ポイント上回りました。
- ボーナスの増減が夏休みのプランに影響するか聞いたところ、ボーナスが「増えた人」では「影響した」と回答した人は18.5%と約2割にとどまり、ボーナスが「減った人」では41.5%と4割以上の人々が「影響した」と回答しました。

～チーフエコノミスト小玉 祐一はこう見る！～

■明治安田生命チーフエコノミスト 小玉 祐一



●今年の夏のボーナスについて

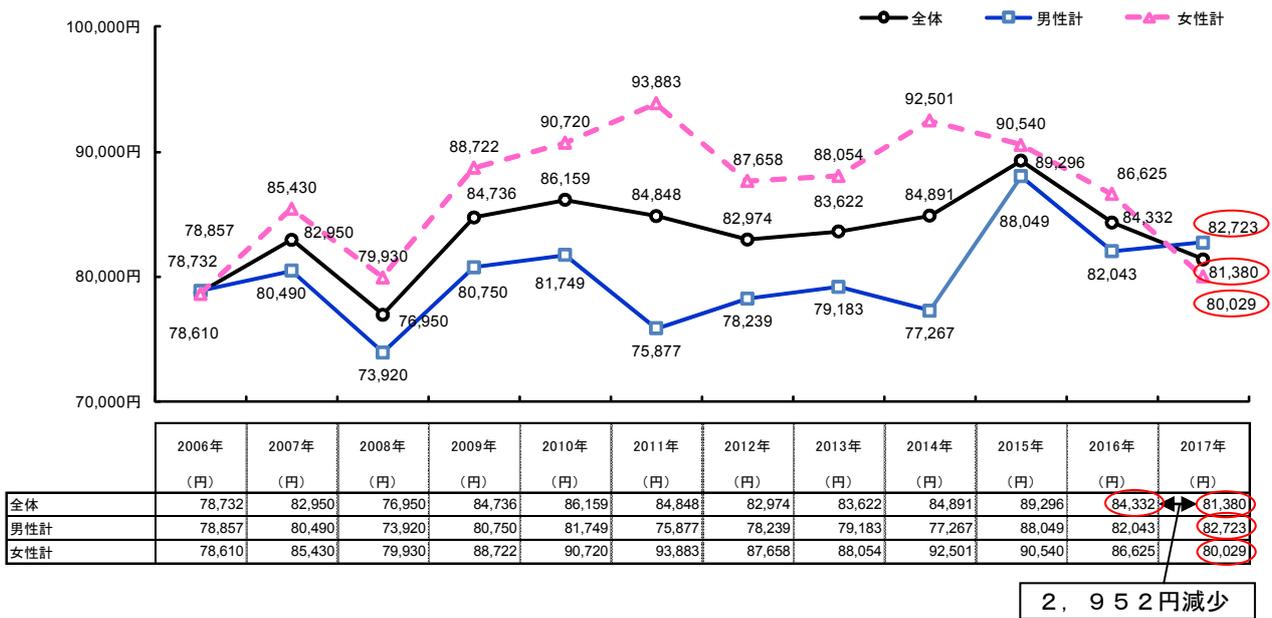
夏のボーナスのアンケート結果を見ると、ボーナスが「増えた」と回答する人が減少し、「もともとボーナスはない/わからない」と回答した人が増加するという、少し厳しい結果となりました。実際、今年の夏のボーナスは、昨年前半の円高の影響が少し遅れて現れたことで、輸出型の製造業については前年を下回る業種が多くなっています。

一方、非製造業では運輸や小売などを中心に人手不足が続いていることから、高めの伸びとなっています。製造業に関しても、企業の業況感は上向きつつあることから、冬以降のボーナス改善に期待したいところです。

●今年の夏の消費について

夏休みに使う金額は2年連続の減少となりました。ボーナスが減ったと答えた人の4割以上が、今年の夏休みのプランに影響したと答えており、夏のボーナスの減少が財布の紐を締める結果に結びついている様子があらわれています。最も、有効求人倍率が43年ぶりの高水準となるなど、雇用の需給は着実に引き締まっています。こうした動きを背景に、賃上げの動きが広がりつつあること、株価の2万円台回復も消費者のマインド好転につながっていることから、ならしてみれば個人消費は徐々に底堅さを増している段階と考えます。

■夏休みに使うお金の推移（男女別）



■夏休みに使うお金（地域別）

| | (円) | | |
|--------|---------|---------|---------|
| | ①2016年 | ②2017年 | 差(②-①) |
| 関東 | 102,650 | 100,411 | △2,239 |
| 東海 | 97,279 | 85,692 | △11,587 |
| 近畿 | 91,264 | 77,672 | △13,592 |
| 九州・沖縄 | 66,931 | 74,640 | 7,709 |
| 甲信越・北陸 | 95,574 | 66,656 | △28,918 |
| 中国・四国 | 67,531 | 59,584 | △7,947 |
| 東北 | 53,051 | 57,358 | 4,307 |
| 北海道 | 60,918 | 55,403 | △5,515 |
| 全国平均 | 84,332 | 81,380 | △2,952 |

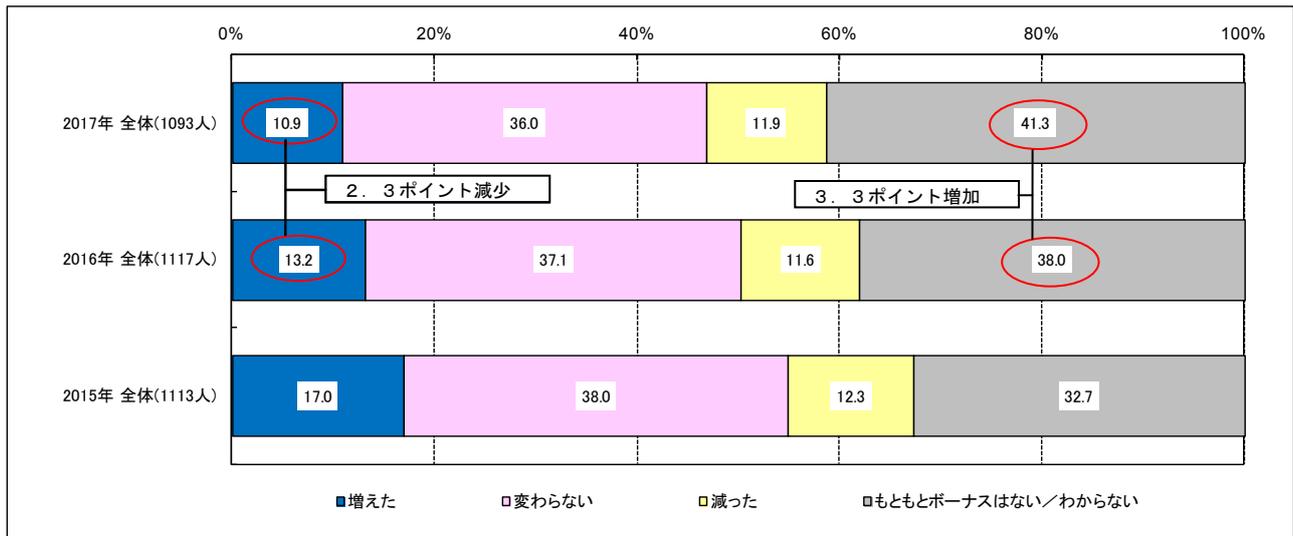
夏休みに使う金額は関東地方がトップ！
全8地域のうち、昨年から増加した地域は
「九州・沖縄」「東北」の2地域！

■夏休みに使うお金（地域比較）

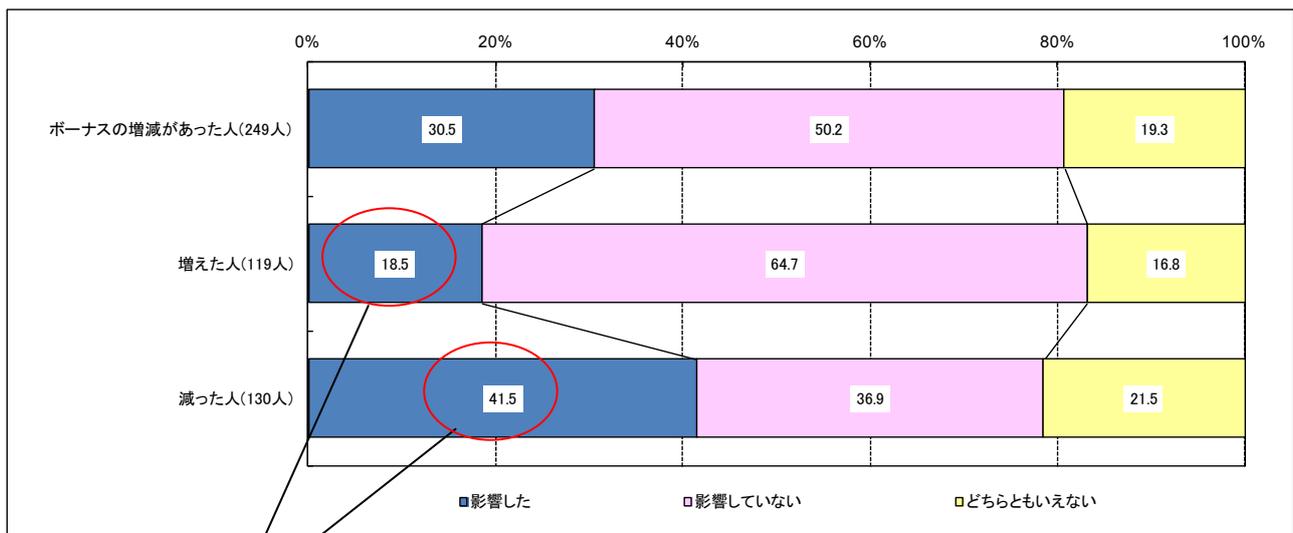
| | (円) | | |
|--------|--------|--------|--------|
| | ①2016年 | ②2017年 | 差(②-①) |
| 三大都市圏 | 92,548 | 91,677 | △871 |
| その他の地域 | 67,335 | 63,469 | △3,866 |
| 格差 | 25,213 | 28,208 | 2,995 |

三大都市圏（関東・近畿・東海）とその他の地域
との格差は、昨年より「2,995円」拡大！

■夏のボーナスの増減（世帯あたり）



■ボーナスの増減における夏休みプランへの影響



「増えた人」のうち「影響した」と回答した人は約2割にとどまったものの、「減った人」のうち「影響した」と回答した人は4割以上！

1. 今年の夏休み

(2) 夏休みの日数における「理想」と「現実」

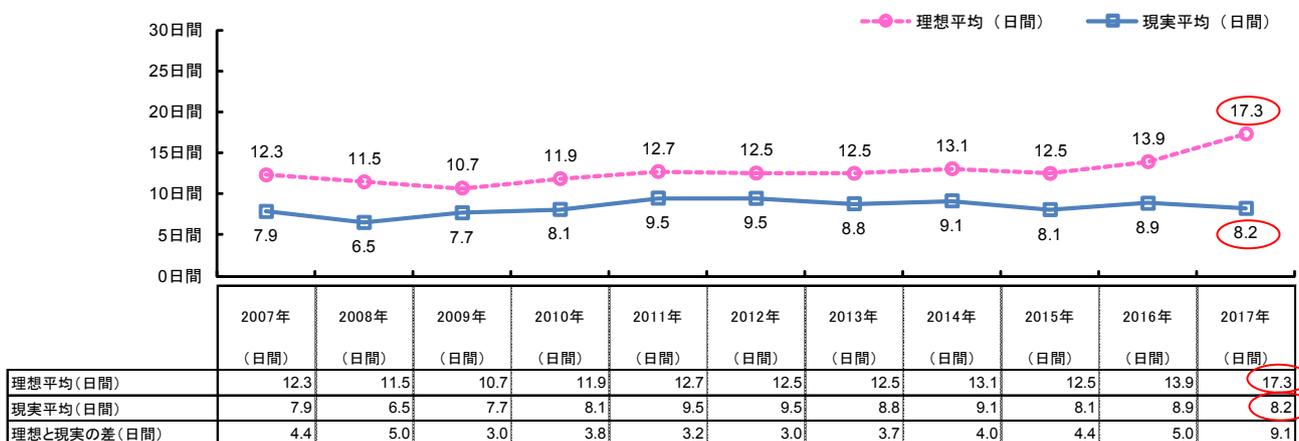
ワーク・ライフ・バランス実現への道のりは遠い！？
夏休みの日数「理想」と「現実」のギャップは調査開始以来最大！

○次に、夏休みの日数における「理想」と「現実」について聞いてみました。

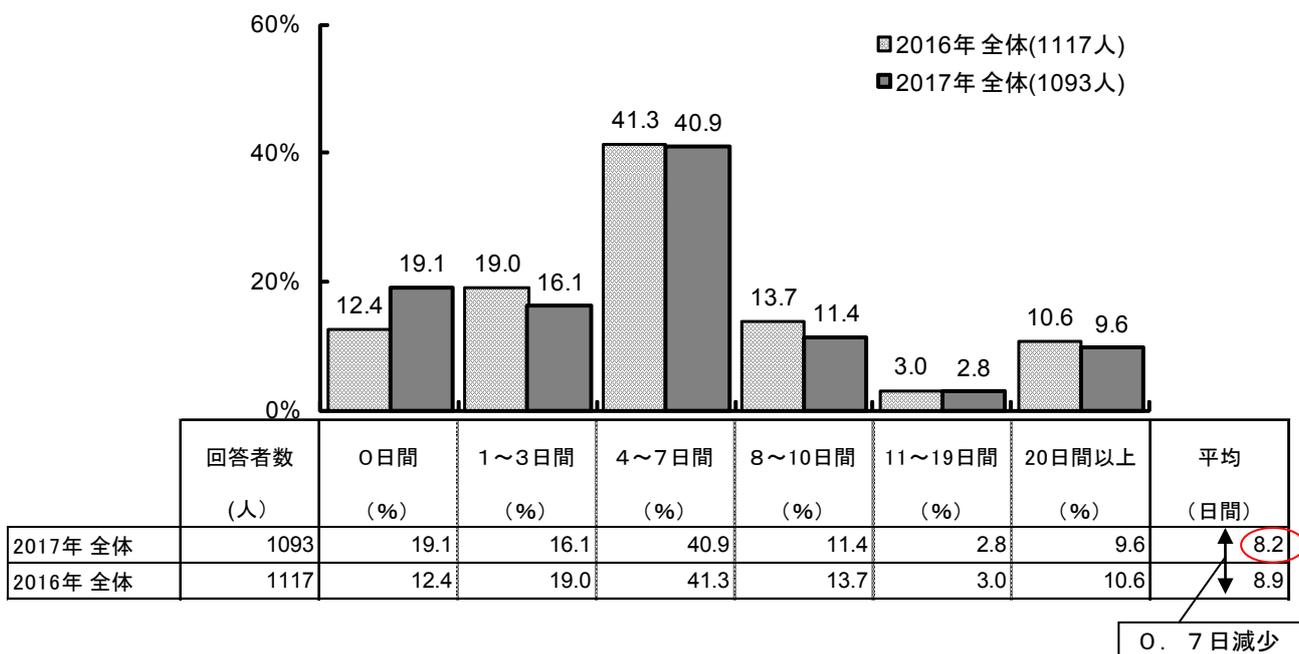
○「理想」の夏休みの日数は、「17.3日」と調査開始以来最長となりました。一方、「現実」の夏休みの日数は「8.2日」と昨年より「0.7日」減少し、「理想」と「現実」のギャップ（差）も調査開始以来最大に拡大しました。

○安倍政権が推進する「働き方改革」が浸透し、ワーク・ライフ・バランスを重視する企業が増えているものの、まだまだ休暇取得に対する「理想」と「現実」には大きな開きがあるようです。

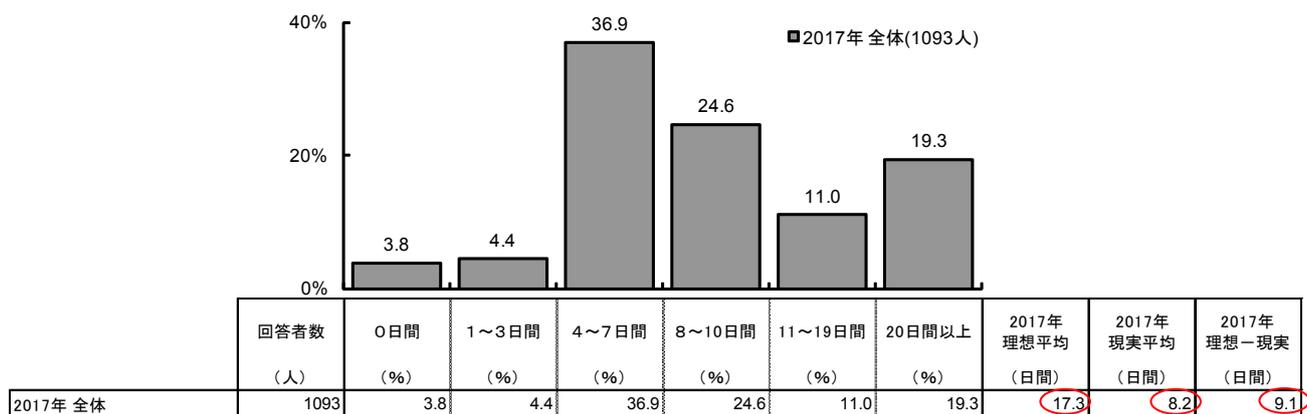
■「理想」の夏休みの日数と「現実」の夏休みの日数の推移



■現実の夏休みの日数（土日も含め連続しての日数）



■理想の夏休みの日数（土日も含め連続しての日数）



理想と現実のギャップは、調査開始以来最高の約9日間！

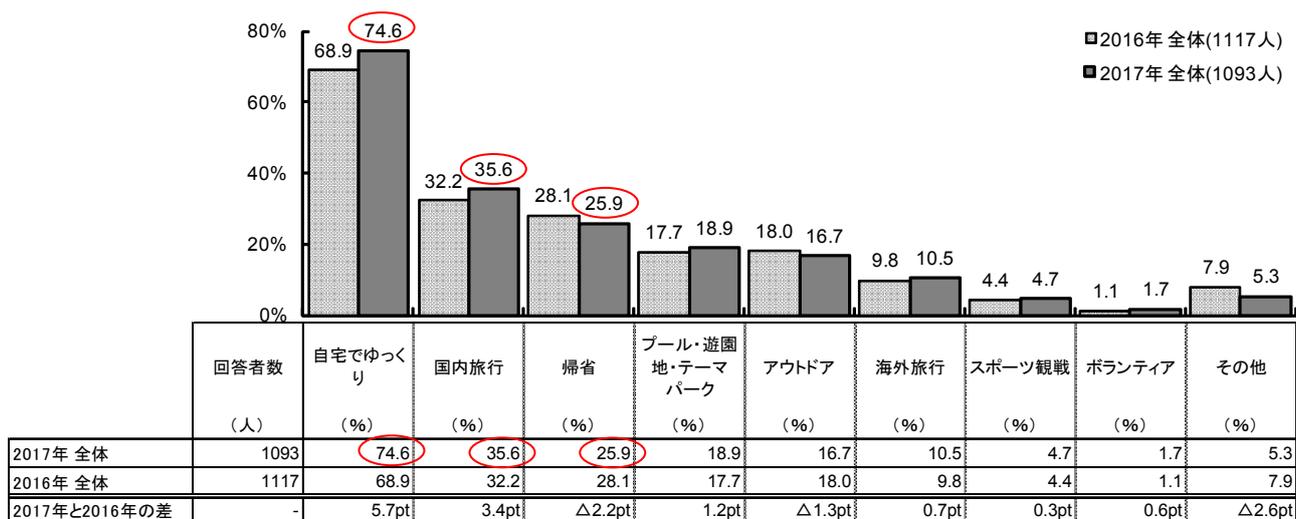
1. 今年の夏休み

(3) 夏休みの過ごし方と理由

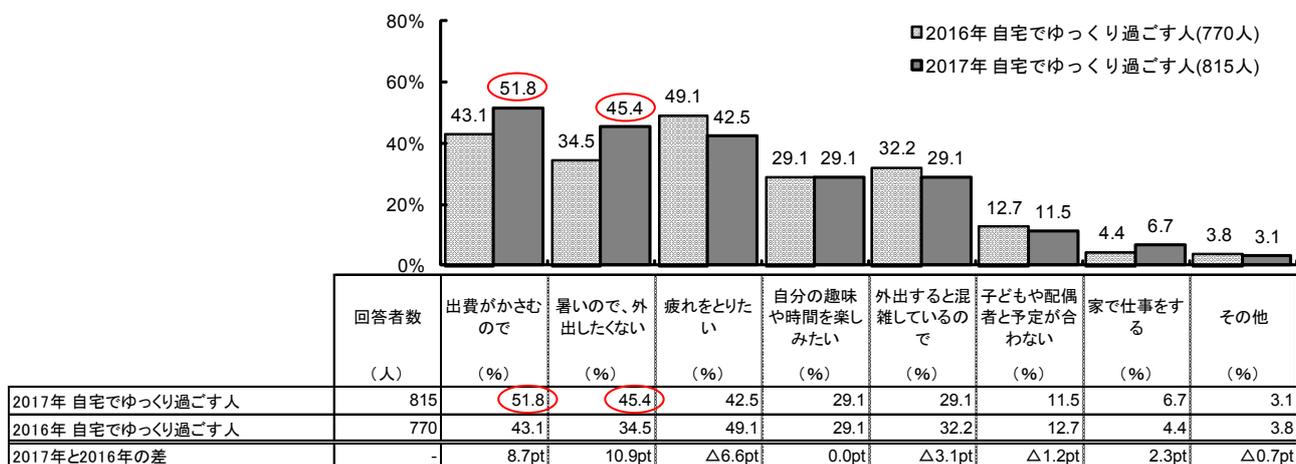
ゆとりなき家計事情!?
節約意識の高まりから約7割超が「自宅でゆっくり」!
夏休みの過ごし方にも「理想」と「現実」のギャップに開きが!

- 夏休みの過ごし方について聞いてみたところ、トップは「自宅でゆっくり」(74.6%)、2位が「国内旅行」(35.6%)、3位が「帰省」(25.9%)となりました。
- 「自宅でゆっくり」する理由は、1位が「出費がかさむので」(51.8%)、2位が「暑いので、外出したくない」(45.4%)と、節約意識や猛暑の影響で外出を控える人が多いようです。
- 理想の過ごし方とのギャップ(理想－現実)をみると、海外旅行(21.3ポイント)が最も大きく、次いで国内旅行(14.1ポイント)、自宅でゆっくり(▲13.7ポイント)となりました。旅行に行きたいものの、実際には出費を抑えなければならない家計事情で、自宅でゆっくりする人が多いのかもしれませんが。過ごし方においても「理想」と「現実」の差が大きく表れる結果となりました。

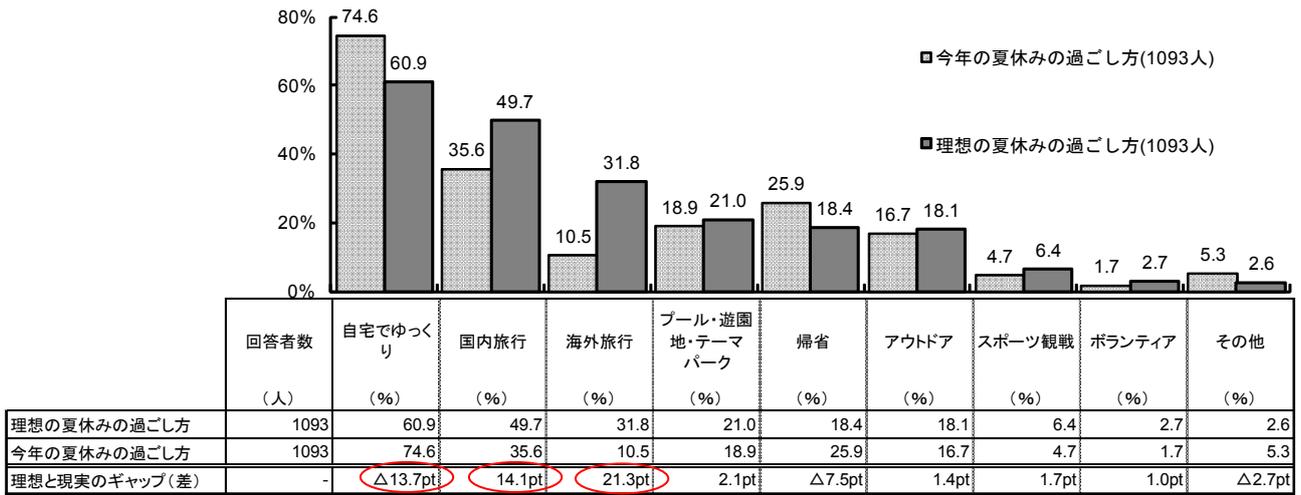
■今年の夏休みの過ごし方(複数回答)



■夏休みを自宅でゆっくり過ごす理由(複数回答)



■理想の夏休みの過ごし方／理想と現実のギャップ（複数回答）



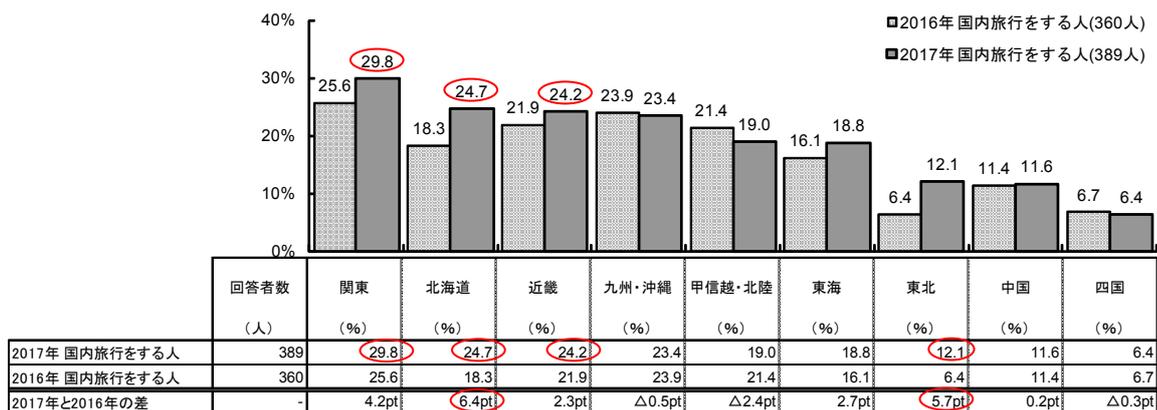
1. 今年の夏休み

(4) 旅行の行き先

猛暑を警戒！？国内旅行の行き先は「北海道」「東北」が大きく増加！

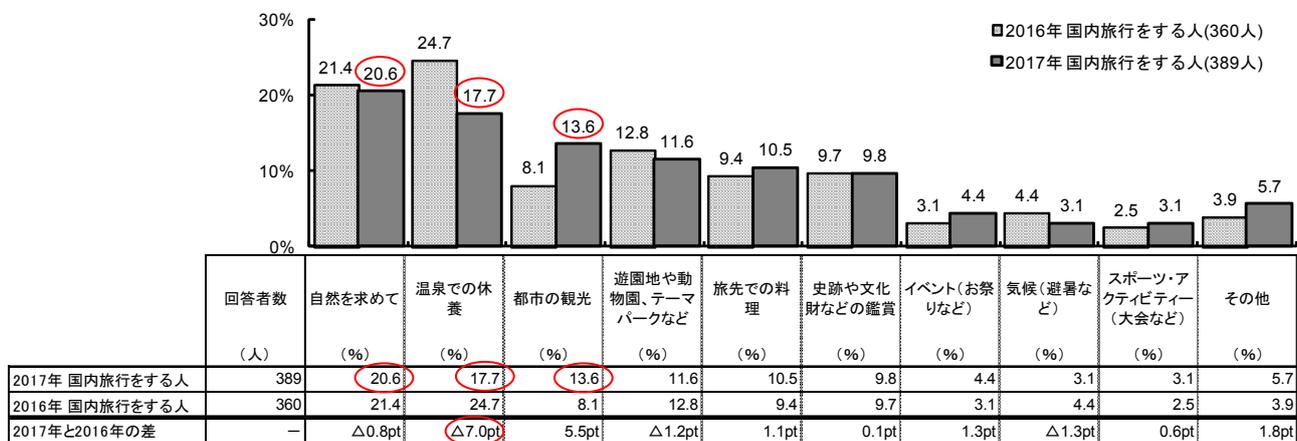
- 夏休みの過ごし方で「国内旅行」と回答した人に行き先を聞いてみました。
- 行き先は、昨年に続き「関東」(29.8%)がトップとなり、2位が「北海道」(24.7%)、3位が「近畿」(24.2%)となりました。また、昨年との比較では、「北海道」(6.4ポイント)・「東北」(5.7ポイント)等、比較的涼しい場所の人气が上昇しています。
- 国内旅行の目的について聞いてみたところ、トップが「自然を求めて」(20.6%)、2位が「温泉での休養」(17.7%)、3位が「都市の観光」(13.6%)となりました。一方、猛暑の影響からか、昨年1位だった「温泉での休養」は、7.0ポイント減少しています。

■国内旅行で行く地域（複数回答）



人気NO. 1は関東！北海道・東北の涼しい場所の人气が高まる！

■国内旅行の主な目的



2. 帰省の費用と交通手段

(1) 帰省に使うお金

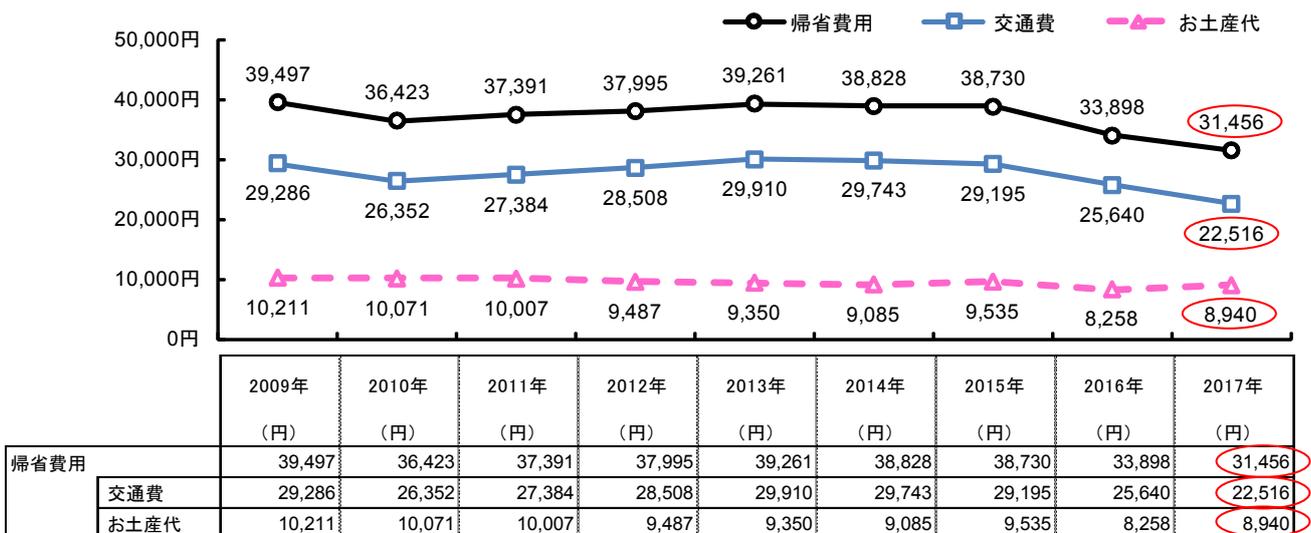
帰省費用も調査開始以来最低の「31,456円」に！！
子どもが喜ぶお盆イベント！「お盆玉」は増加傾向！

- 帰省費用（帰省の際に使う交通費＋おみやげ代）を聞いてみました。
- 交通費は「22,516円」と、昨年より「3,124円」の減少となり、夏の帰省の交通費について調査をはじめた2009年以来、最低額となりました。
- おみやげ代は「8,940円」と、昨年から「682円」増加したものの、帰省費用（交通費＋おみやげ代）は、「31,456円」と2009年の調査開始以来最低額となりました。帰省に使うお金においても、節約志向が高まっている傾向がみてとれます。
- また、お盆に孫や親戚の子どもにお小遣いを渡す「お盆玉」について予定を聞いたところ、7.2%の人が「渡す予定がある」と回答し、昨年から1.2ポイント増加しました。
- 「渡す予定がある人」に一人当たりの金額を聞いたところ、金額の平均は「8,804円」と、昨年を「2,013円」上回りました。節約志向は高まっていますが、孫や親戚の子どもに対してはお金をかけたいという気持ちの表われでしょうか。

■帰省費用（交通費＋おみやげ代）

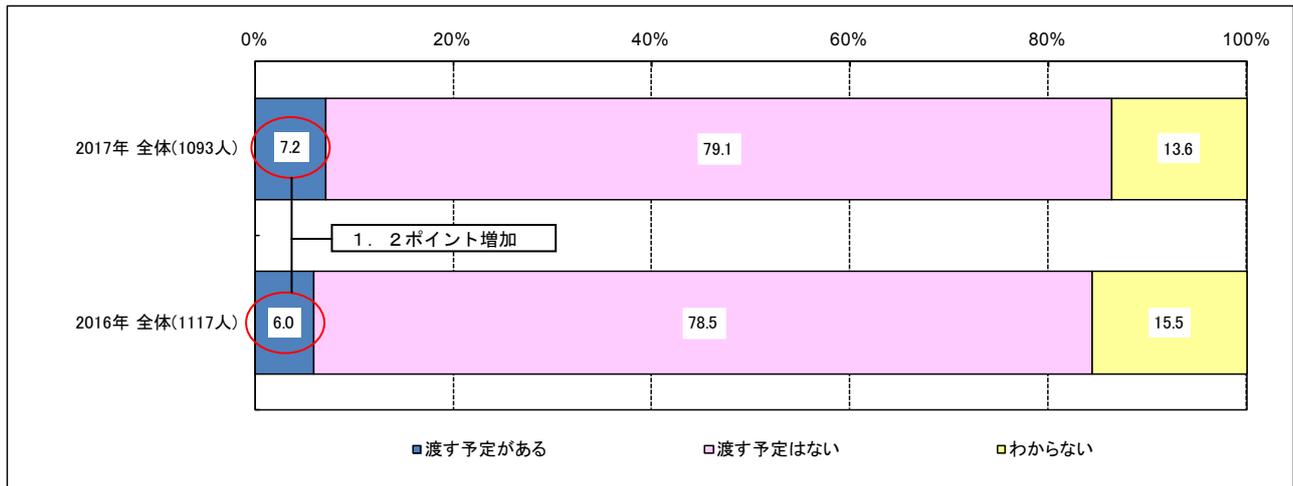
| | (円) | | |
|-------|--------|--------|--------|
| | 2016年 | 2017年 | 前年差 |
| 帰省費用 | 33,898 | 31,456 | △2,442 |
| 交通費 | 25,640 | 22,516 | △3,124 |
| おみやげ代 | 8,258 | 8,940 | 682 |

■帰省費用の推移

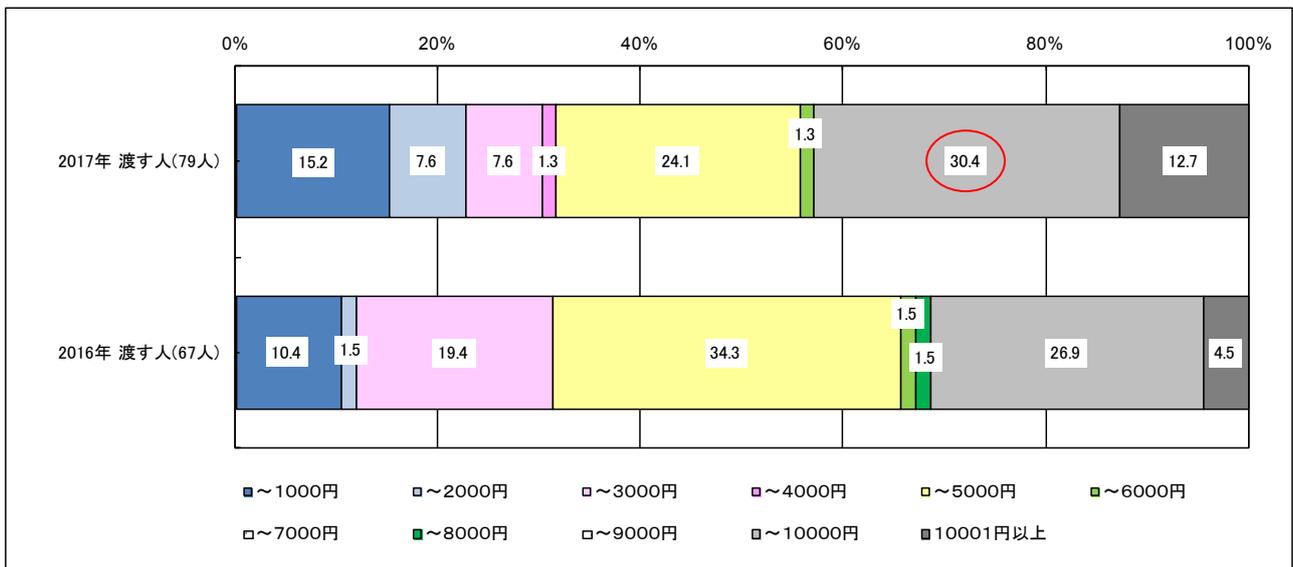


**夏の帰省費用は、調査をはじめた
2009年以来最低額に！**

■お盆に孫や子どもにお小遣い（お盆玉）を渡す予定



■一人当りに渡すお小遣いのお金



| | 回答者数 (人) | ~1000円 (%) | ~2000円 (%) | ~3000円 (%) | ~4000円 (%) | ~5000円 (%) | ~6000円 (%) | ~7000円 (%) | ~8000円 (%) | ~9000円 (%) | ~10000円 (%) | 10001円 以上 (%) | 平均 (円) |
|-----------|-------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|----------------|---------------------|-----------|
| 2017年 渡す人 | 79 | 15.2 | 7.6 | 7.6 | 1.3 | 24.1 | 1.3 | - | - | - | 30.4 | 12.7 | 8,804 |
| 2016年 渡す人 | 67 | 10.4 | 1.5 | 19.4 | - | 34.3 | 1.5 | - | 1.5 | - | 26.9 | 4.5 | 6,791 |

2, 013円増加

2. 帰省の費用と交通手段

(2) 帰省の交通手段

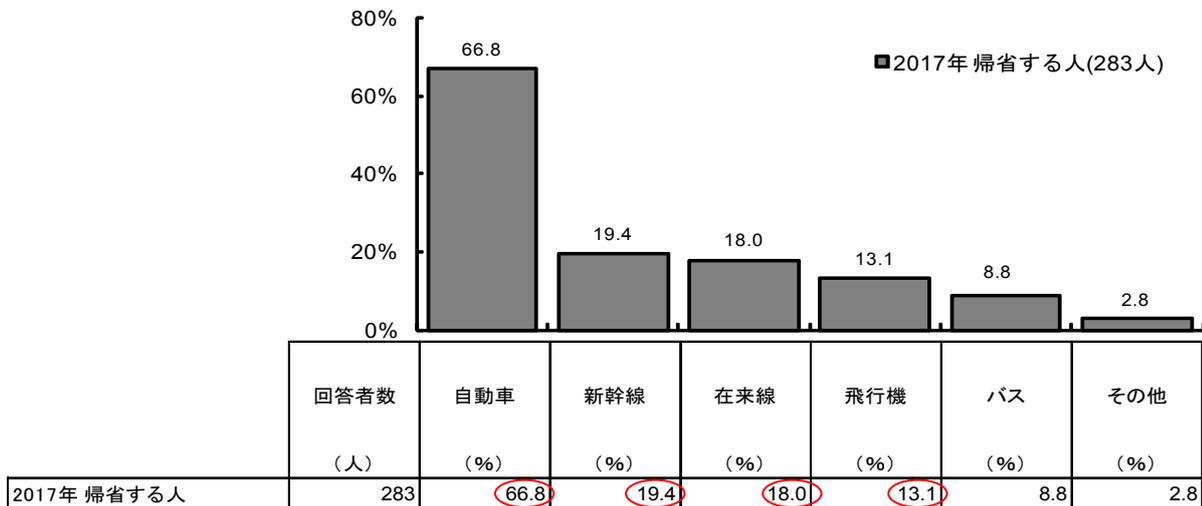
帰省の渋滞も何のその！？「安さ」重視で6割以上が車で帰省！

○帰省する人に、帰省の交通手段について聞いてみました。

○帰省の交通手段は、1位「自動車」(66.8%)、2位「新幹線」(19.4%)、3位「在来線」(18.0%)、4位「飛行機」(13.1%)となりました。未婚・既婚別で見ると、未婚の人は、交通手段が分散しているものの、既婚の人は、「自動車」を選択する人が79.9%と圧倒的に多い結果となりました。

○さらに、帰省の交通手段で最も重要視することを聞いたところ、1位「費用が安いこと」(37.5%)、2位「快適であること」(23.7%)、3位「時間に融通が効くこと」(20.5%)と、帰省の交通手段においても、家計の負担を抑えたいという気持ちが強いです。

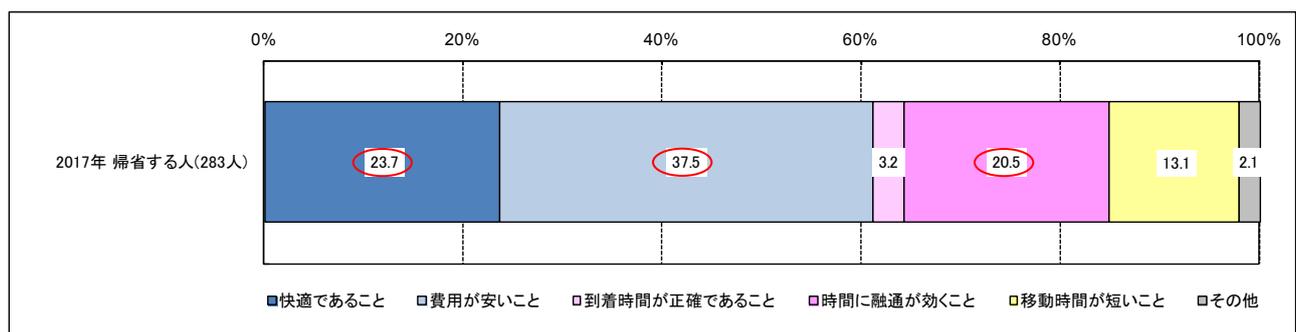
■帰省の交通手段（複数回答）



■家族構成別の帰省の交通手段（複数回答）

| | 自動車 (%) | 新幹線 (%) | 在来線 (%) | 飛行機 (%) | バス (%) | その他 (%) |
|----------|------------|------------|------------|------------|-----------|------------|
| 未婚計 | 38.2 | 32.6 | 36.0 | 24.7 | 16.9 | 2.2 |
| 既婚計 | 79.9 | 13.4 | 9.8 | 7.7 | 5.2 | 3.1 |
| 既婚子どもなし計 | 62.2 | 13.5 | 16.2 | 8.1 | 5.4 | 8.1 |
| 既婚子どもあり計 | 84.1 | 13.4 | 8.3 | 7.6 | 5.1 | 1.9 |

■帰省の交通手段で最も重要視すること



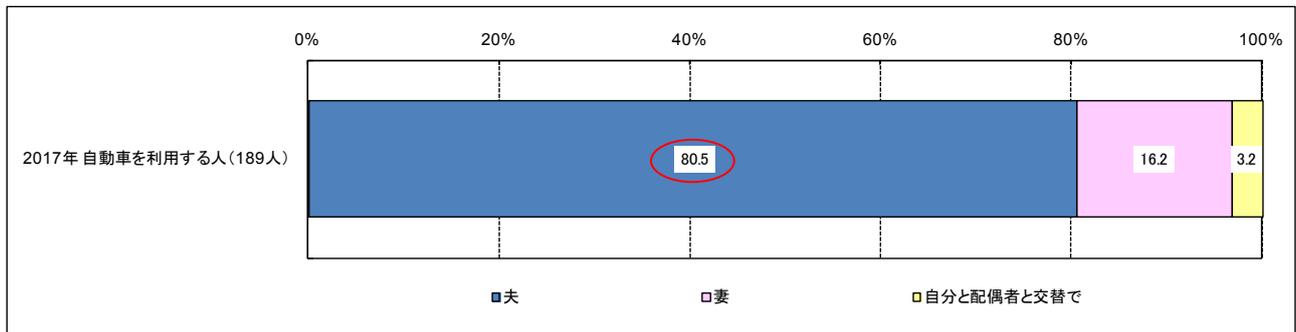
2. 帰省の費用と交通手段

(3) 帰省と家族

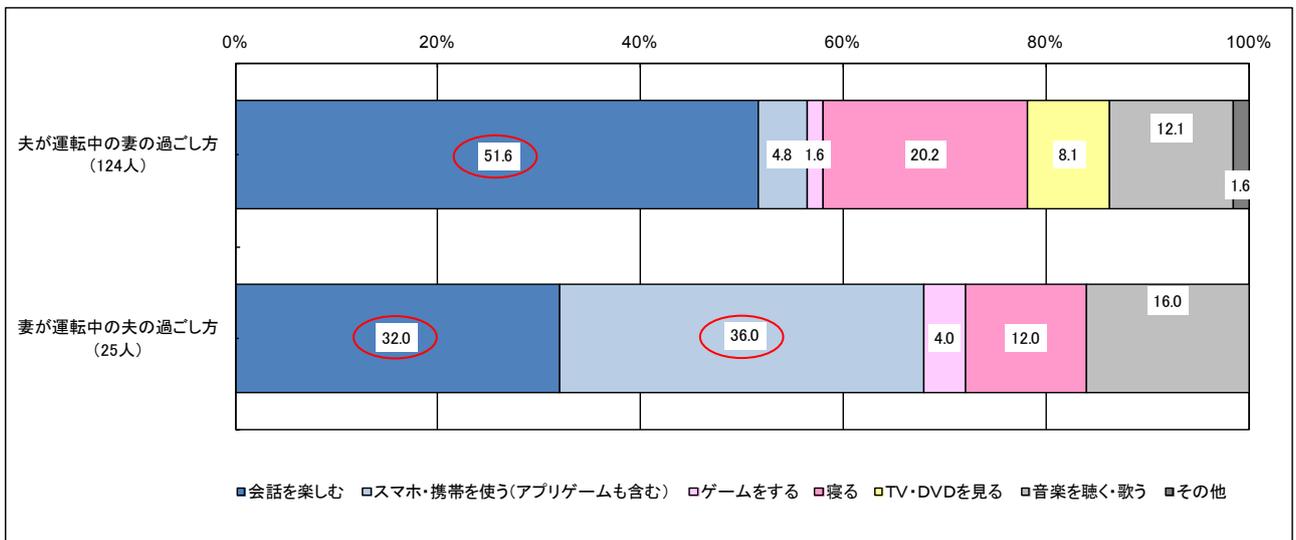
「家族サービス」という名の大仕事！帰省の運転は約8割が夫！

- 自動車で帰省する子どものいる既婚の人に、帰省中の運転について聞いてみました。
- 主に運転するのは、夫（80.5%）と、圧倒的に男性が多い結果となり、仕事で疲れているお父さんにとって、夏休みも「家族サービス」という名の大仕事が待ち受けているようです。
- 車中での同乗者の主な過ごし方を聞いたところ、夫が主に運転する家庭では、「会話を楽しむ」が（51.6%）と過半数を占め、世のお父さん達にはちょっとうれしい結果となりました。一方、妻が主に運転する家庭では、「スマホ・携帯を使う」（36.0%）がトップになりました。運転する夫を会話で支える妻とは対照的に、妻が運転する間にスマホを見ている夫の姿は、妻（運転手）への配慮不足が表れてしまった結果となりました。
- ただ、夫においても「会話を楽しむ」（32.0%）は2番目に多い過ごし方となっており、帰省ラッシュで渋滞に巻き込まれることも多い時期ですが、自動車での帰省は、家族とのコミュニケーションを図る場になっているようです。

■主に運転する人



■同乗者の主な過ごし方



3. キッズウィーク

(1) 制度導入への賛否と理由

「キッズウィーク」導入の効果にはまだまだ懐疑的！？ 賛成は約3割！成否のカギは、やはり親の休暇取得か！？

- 夏休みなど学校における長期休暇の一部を別の時期に移すとともに、親が働く企業への休暇取得を促進する「キッズウィーク」の導入が検討されていますが、その賛否について聞いてみました。
- 「導入すべき計」が30.0%（※）と、「導入すべきではない計」（23.3%）（※）を上回る結果となりました。一方で、「どちらともいえない」が46.7%を占めており、同制度に対する期待があるものの、まだまだ懐疑的に思っている人が多いようです。
（※）「導入すべき」「どちらかといえば導入すべき」の合計。「導入すべきではない」「どちらかといえば導入すべきではない」の合計。
- 賛成の理由としては、1位「親子のコミュニケーションが促進される」（57.6%）、2位「夏休みの混雑が緩和される」（53.7%）、3位「旅費の安い時期に旅行することができる」（51.8%）となり、政府のねらいに合致する結果となりました。
- 反対の理由としては、1位「子どもにあわせて親の休みが取れず、有効活用できない」（54.1%）、2位「子どもの有無や職種によって、親の有休取得に不公平感が生じる」（45.5%）が最も多い理由となり、導入には、親の休暇取得がカギとなりそうです。
- 親の休暇取得については、「キッズウィーク」導入に賛成で、かつ対象の子どもがいる人に、「キッズウィーク」にあわせて休暇を取得したいか聞いたところ、45.8%が「取得したい」と回答し、「取得したくない」は13.7%にとどまりました。

～チーフエコノミスト小玉 祐一はこう見る！～

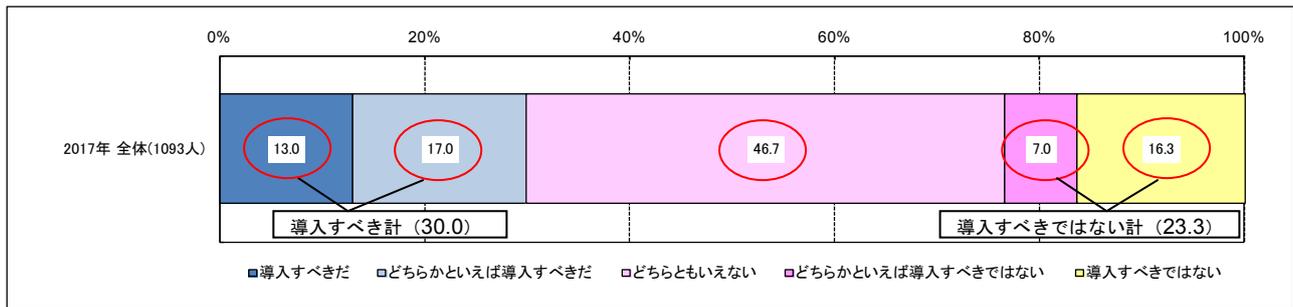
■明治安田生命チーフエコノミスト 小玉 祐一



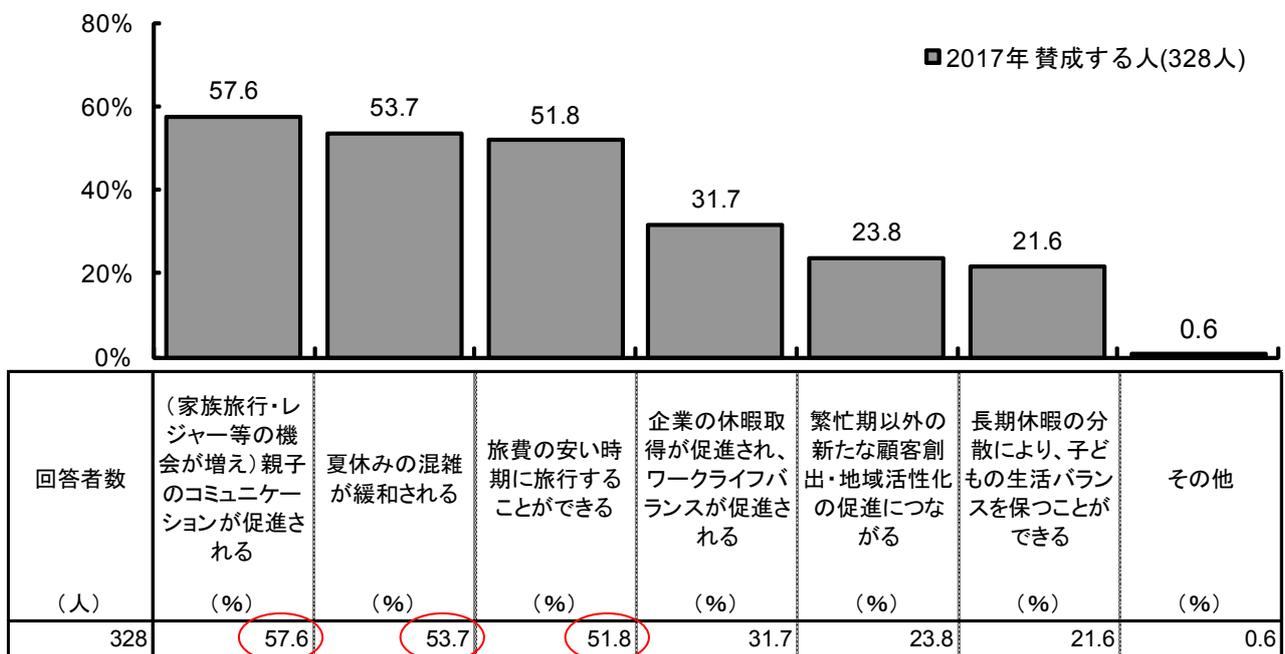
●キッズウィークについて

キッズウィークが普及すれば、観光地や交通機関の混雑が分散化され、旅費の安い時期に旅行できるようになるため、旅行需要を刺激する効果が期待できそうです。政府の「働き方改革」の趣旨とも合致する取り組みです。成否のカギを握るのは、どれだけの親が子供の休みに合わせて休暇を取ることができるかです。ただでさえ、人手不足で忙しくなるなか、社員の自主性に任せていては、普及はきわめて難しいと言わざるを得ません。政府の強い働きかけと、休みを取りやすくするための企業側の努力、経営者の意識改革などが不可欠と言えます。

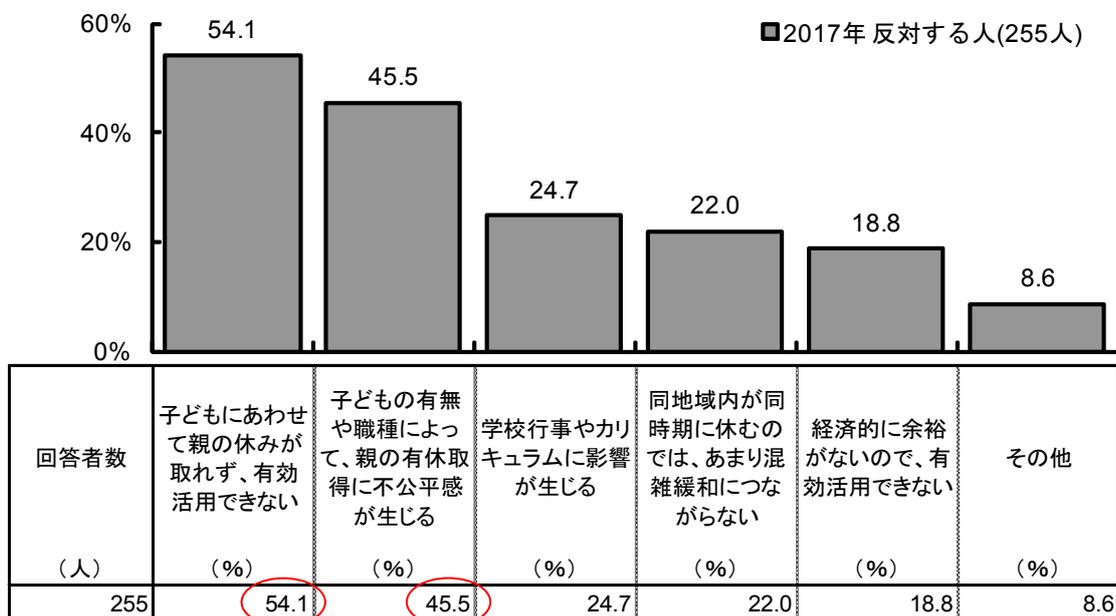
■「キッズウィーク」導入への賛否



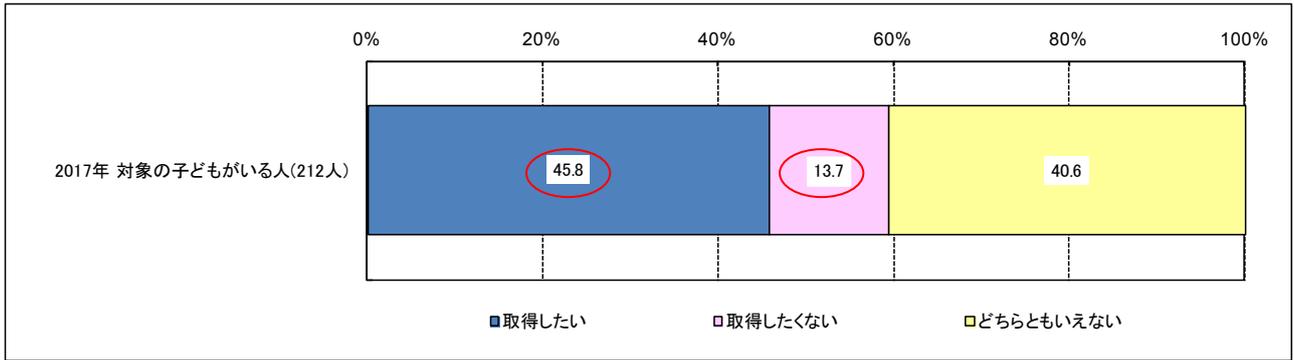
■「キッズウィーク」導入に賛成の理由（複数回答）



■「キッズウィーク」導入に反対の理由（複数回答）



■ 「キッズウィーク」が導入された場合、休暇を取得したいか

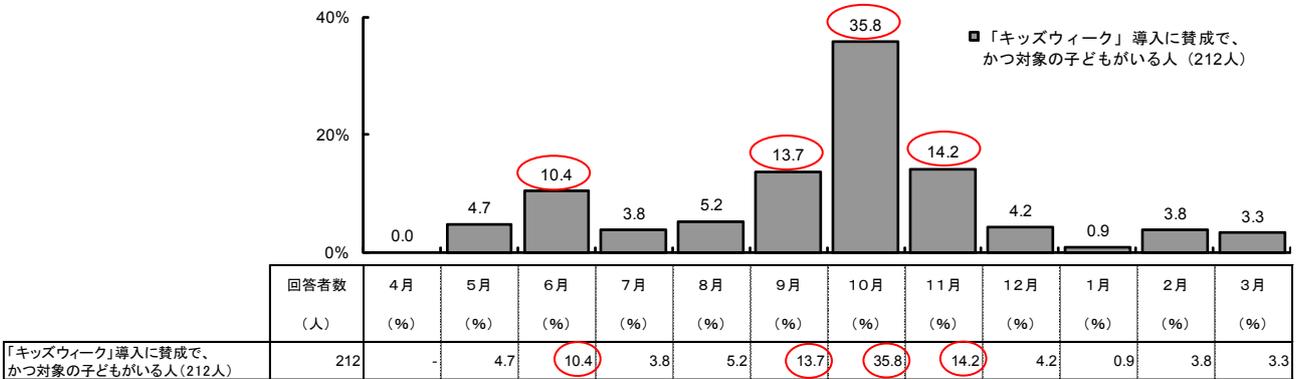


(2) 理想の取得時期と過ごし方

「秋休み」を熱望！？「キッズウィーク」の理想の取得時期は
6割超が「秋」（9～11月）と回答！

- 「キッズウィーク」導入に賛成で、かつ対象の子どもがいる人に、子どもの長期休暇の一部を別の時期に移動させるなら、何月頃が理想か聞いてみたところ、「10月」が35.8%と最も多く、次いで「11月」が14.2%、「9月」が13.7%と、秋を希望する人が過半数を占める結果となりました。外で過ごしやすい気候など、観光に適したシーズンであることに加え、秋には長期休暇がないことも、選ばれた理由かもしれません。
- 「6月」も10.4%と4番目に多く、唯一祝日がない月であることが理由の一つと考えられます。
- また、「キッズウィーク」が導入されたら、何をしたいかを聞いてみたところ、「国内旅行」が56.6%と最も多く、次いで「遊園地・テーマパーク」33.0%、「自宅でゆっくり」が31.6%という結果になりました。
- 「キッズウィーク」導入に賛成で、かつ対象の子どもがいる人に聞いた今年の夏休みの過ごし方と比較すると、「自宅でゆっくり」（39.2ポイント）が減少した一方で、「帰省」（22.1ポイント）、「国内旅行」（14.1ポイント）、「海外旅行」（7.0ポイント）など、外出する人が増加する結果となり、キッズウィーク導入による消費創出効果が期待されそうです。

■理想の取得時期



■「キッズウィーク」の過ごし方と夏休みの過ごし方の比較

